

諏訪の景気動向

平成17年8月

(平成17年7月末D・I調査)

平成17年8月12日

諏訪信用金庫

経営相談室

諏訪地方の景気動向（平成17年7月末）

平成17年7月末アンケート調査および企業訪問ヒヤリング調査からまとめた諏訪地方の景況

当金庫が諏訪地方 201社のご協力を得て行った7月末の景気動向調査からみた地域の景況は、「3ヶ月前」と比べ業況判断DIが1年ぶりにプラスとなるなど緩やかな回復傾向がみられる。

製造業の業況は「好転」17.3%、「悪化」16.0%で業況判断DIは1.3ポイントで1年ぶりにプラスとなり地域製造業は企業、業種により区々ではあるものの全体としては回復傾向となっている。

「3ヶ月前」と比べての受注状況DIは0.6ポイントとなっている。「3ヶ月前」と比べ「不変」とする企業が48.1%と一番多いなか電機機械に受注が増加した企業が多くみられた。「3ヶ月後」の受注予測は増加とみる企業が18.2%、減少とみる企業が20.9%で見方がわかれている。自動車関連や液晶関連、工作機械などの生産は高水準となっている。ヒヤリング調査からは携帯電話、デジタル家電などメーカーの生産が増加しており地域の関連企業の受注が増加するなど、電機関連の受注回復は3ヶ月前の予測より早まった。「3ヶ月後」の受注予測DIは2.7ポイントで規模別では29人以下の企業に減少と見る企業が多くみられ、業種では金属製品や一般機械製造企業に受注が減少すると予想する企業がみられる。

商業は、日中の外出を控える消費者がみられるなど猛暑の影響が一部にみられた。政府提唱のクールビズ関連商品や薄型TVなど順調な売れ行きをみせた商品もみられたが食料品などは価格が下がり客単価は下がっている。商業全体の「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは7.1ポイントで回復しているが御柱の「前年同月比」では35.7ポイントとなっている。

観光・サービス業は、観光シーズンに入り猛暑から涼を求めて入り込み客が多く諏訪地域の観光地はそれぞれ賑わいをみせた。宿泊客が増加したところも多く「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは47.1ポイントとなった。宿泊客は増減区々となっているが「3ヶ月前」比の宿泊客DIは44.4ポイントとなっている。愛知万博の影響も懸念されているが「3ヶ月後」について予想業況DIは50.0ポイントと期待感が大きくなっている。

建設業は、大型公共工事の案件はみられず新設住宅など建築工事には幾分動きがみられるが受注環境に変化がみられず厳しい状況が続いている。

収益性は、製造業は原材料費の値上がり、受注単価の引き下げから改善はみられない。非製造業は商業は客単価の低下から収益性に改善はみられず、観光・サービス業はシーズンを迎え幾分改善の動きが見られたものの建設業は厳しい受注環境が続いており非製造業全

体としては依然マイナスとなり収益改善は見られない。

6月の諏訪地方の有効求人倍率は1.23倍で1昨年10月から21ヶ月連続して1倍を上回り雇用環境は安定している。

新規求人は諏訪、岡谷職安合わせて1,651人で前年同月比8.2%の増。

新規求職者数は867人で前年同期比8.9%増となっている。

業況判断DIの推移（3ヶ月前と比較して）

今回調査（7月末）の回答全社201社の「3ヶ月前」と比べての業況は横這いとする企業が62.7%、業況判断DIは4.5ポイントと1年ぶりプラスとなり業況は回復傾向を示している。

製造業の業況判断DIは1.3ポイントで1年ぶりにプラスとなっており1月を底に幾分回復傾向をみせている。受注状況は、48.1%の企業は「不変」としている。電機機械、一般機械に受注で増加企業が見られるが金属製品、非鉄金属製造業に受注が減少した企業が見られ製造業全体としての受注状況DIは0.6ポイントで受注状況は業種や企業により区々となっている。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断DIは15.6ポイントで商業、サービス業など第3次産業は天候にも恵まれ観光シーズンを迎えたことから業況が回復したところが多くみられる。建設業は公共事業の発注案件が少ないなど受注環境は好転せずに厳しい状況が続いている。

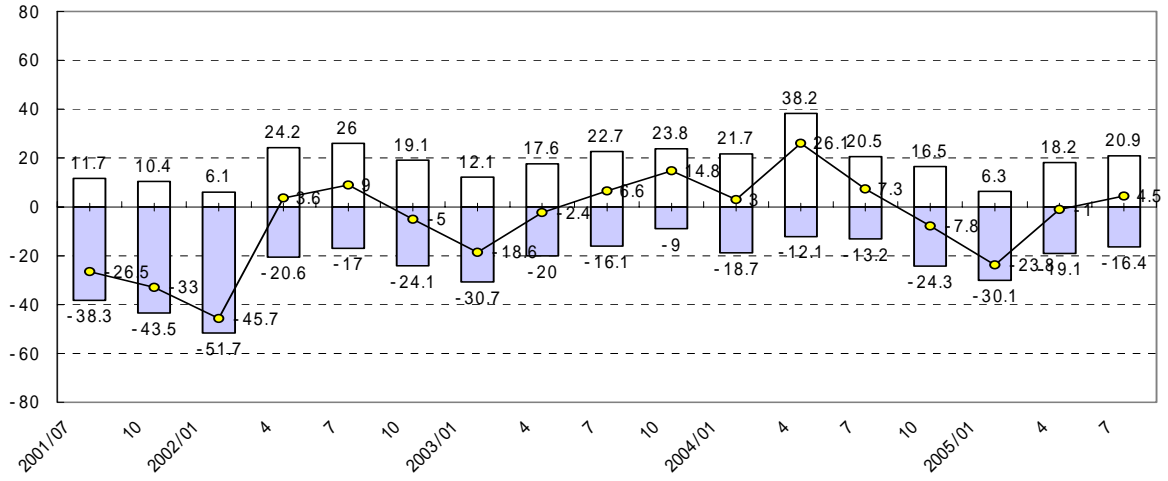
表 - 1

産業別業況表	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
全 体	201	20.9	62.7	16.4	4.5	200	24.0	38.0	38.0	-14.0	195	20.0	65.6	14.4	5.6
製 造 業	156	17.3	66.7	16.0	1.3	154	26.0	40.3	33.8	-7.8	150	14.0	72.7	13.3	0.7
非製造業	45	33.3	48.9	17.8	15.6	46	17.4	30.4	52.2	-34.8	45	40.0	42.2	17.8	22.2
商業(大型店)	14	35.7	35.7	28.6	7.1	14	21.4	21.4	57.1	-35.7	14	35.7	50.0	14.3	21.4
建 設 業	14	7.1	71.4	21.4	-14.3	14	7.1	35.7	57.1	-50.0	13	7.7	69.2	23.1	-15.4
観光・サービス	17	52.9	41.2	5.9	47.1	18	22.2	33.3	44.4	-22.2	18	66.7	16.7	16.7	50.0

自社業況判断DIの推移(「3ヶ月前」と比べて)

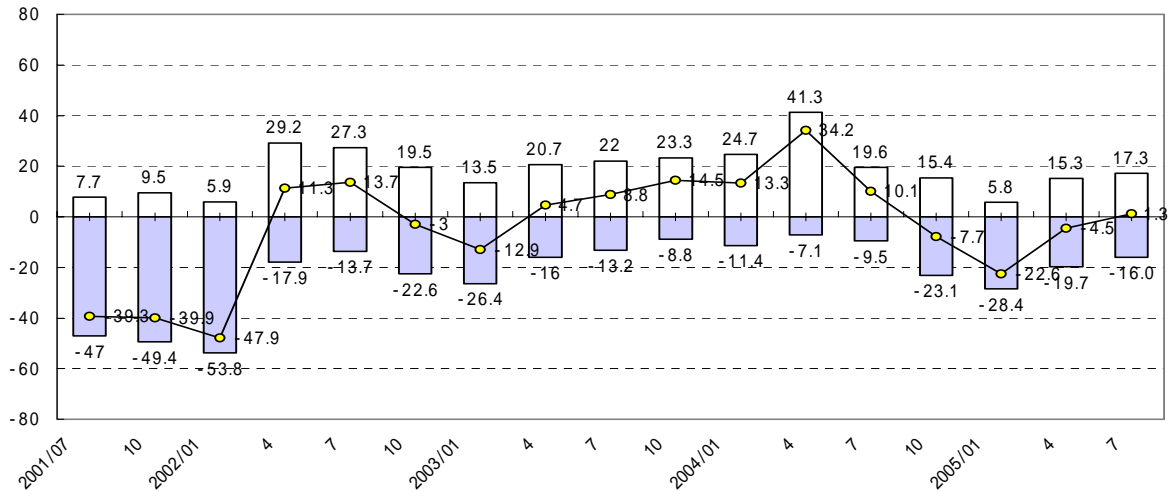
回答全社

グラフ - 1



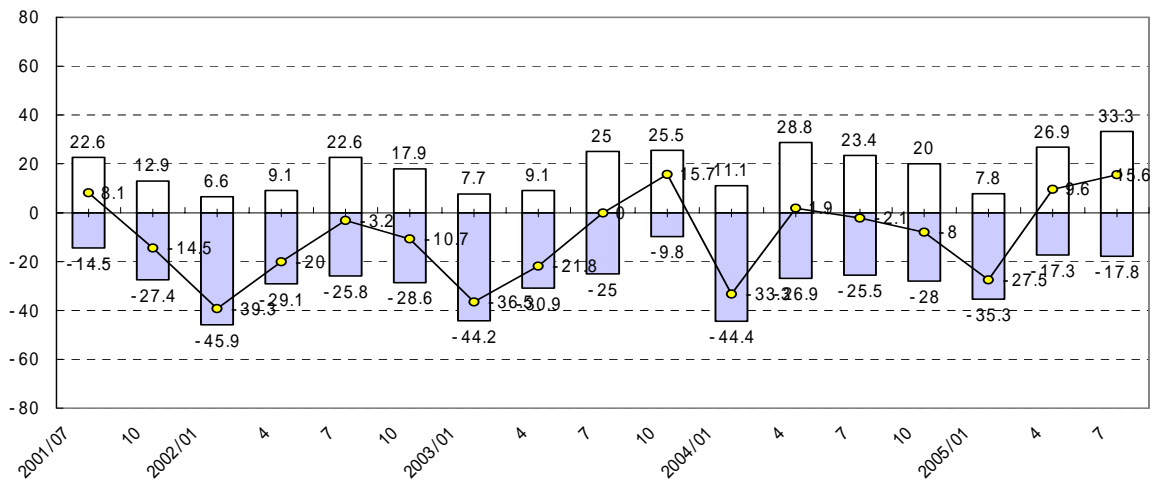
製造業

グラフ - 2



非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)

グラフ - 3



産業別景気動向

1. 製造業

製造業の業況判断DIは 1.3ポイントで16年7月調査以降1年ぶりにプラスとなった。

業況判断は業種により区々となっており電機機械、一般機械に業況が好転した企業が増え金属製品、非鉄金属に業況悪化企業がみられる。

規模別では100人以上の企業に業況が好転した企業が多く業況判断DIは18.8ポイントとなっているが29人以下の企業の業況判断DIは5.3ポイントとなっており企業規模により業況判断が分かれている。

携帯電話、デジタル家電はメーカーの生産増加のなか激しい競争が続き下請け企業の受注状況は取引先により区々となっている。自動車関連や産業機械など設備関連の企業は「好転」「横這」とする企業が多く高水準の生産が続いている。

地域企業は66.7%の企業が業況は「横這」としているが「好転」企業が17.3%で前回調査時の15.3%に続き増加している。「悪化」した企業が16.0%みられるものの製造業全体としては1月を底に緩やかな回復傾向が続いている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表 - 2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	
製 造 業	156	17.3	66.7	16.0	1.3	154	26.0	40.3	33.8	-7.8	150	14.0	72.7	13.3	0.7	
規 模	1～29人	76	11.8	71.1	17.1	-5.3	75	30.7	34.7	34.7	-4.0	73	11.0	71.2	17.8	-6.8
	30～99人	48	20.8	58.3	20.8	0.0	47	19.1	44.7	36.2	-17	45	15.6	73.3	11.1	4.4
	100～人	32	25.0	68.8	6.3	18.8	32	25.0	46.9	28.1	-3.1	32	18.8	75.0	6.3	12.5
中 分 類	金 属 製 品 製 造 業	21	19.0	52.4	28.6	-9.5	20	15.0	30.0	55.0	-40.0	19	5.3	84.2	10.5	-5.3
	一 般 機 械 器 具 製 造 業	43	18.6	67.4	14.0	4.7	41	36.6	36.6	26.8	9.8	40	10.0	80.0	10.0	0.0
	電 気 機 械 器 具 製 造 業	29	31.0	55.2	13.8	17.2	29	24.1	44.8	31.0	-6.9	29	17.2	75.9	6.9	10.3
	輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業	16	0.0	93.8	6.3	-6.3	16	25.0	50.0	25.0	0.0	15	20.0	53.3	26.7	-6.7
	精 密 機 械 器 具 製 造 業	15	6.7	66.7	26.7	-20.0	16	6.3	43.8	50.0	-43.8	15	33.3	46.7	20.0	13.3

諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

金属製品（プレス、メッキ、熱処理など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは9.5ポイントとなっている。好転企業が19.0%見られるもののコストダウンや受注減などから悪化した企業が28.6%となった。

「3ヶ月後」の予想業況DIは5.3ポイントで「横這」とみる企業が84.2%となっている。

一般機械（工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など）

「3ヶ月前」と比べて業況判断DIは 4.7ポイントで、工作機械、専用機械は自動車関連機械や自動化・省力化設備など順調な生産を続けている。当面高水準の生産が続いているが「3ヶ月後」については受注が幾分落ち着くとのみかたもあり予想業況DIは 0.0ポイントとなっている。

電気機械（家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど）

「3ヶ月前」と比べ業況が「好転」した企業が 31.0%で、業況判断DIは 17.2ポイントで1月を底に回復した。携帯電話、デジタル家電関連企業の業況が回復しており「3ヶ月後」の予想業況DIは 10.3ポイントと引き続き好転を予想する企業が多い。

輸送用機械（自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは 6.3ポイントで「横這」とする企業が93.8%となっている。国内の自動車生産は高水準で安定しているが発注コストの引き下げは厳しくコスト吸収に苦慮している。

精密機械（時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは 20.0ポイントとなっている。「横這」とする企業が66.7%と多いものの受注単価が下がり業況が悪化した企業が見られる。

他の製造業

食料品、繊維工業、プラスチック工業、非鉄金属など業種、取引先により業況判断は区々となっている。

規模別業況

製造業の規模別業況判断DIは1人～29人企業 5.3ポイント、30人～99人企業 0.0ポイント、100人以上企業 18.8ポイントで100人以上企業に業況が「好転」した企業が多くみられる。

「3ヶ月後」の業況の予想では規模の大きな企業に好転すると予測する企業が多くみられるがコストダウンの影響もみられ企業規模により見方が分かれている。

ヒヤリング調査からは地域大手企業の中には電子デバイスなど当初見込みより早く受注が回復したとの企業もあり、大手完成品メーカーから専用機など大口受注の引き合いもみられる。

業種別・規模別受注状況

製造業全社の受注状況は「3ヶ月前」と比べ増加企業 25.6%、減少企業 26.3%で、受注状況DIは 0.6ポイントと4期連続してマイナスポイントになった。増加企業が増えているが業種間に温度差があり総体としての受注環境は足踏み状態となっている。

規模別の受注状況はいずれの規模も「不変」が一番多いものの受注状況DIは100人以上企業の受注状況DIが 18.8ポイント、30人～99人企業 2.1ポイント、29人以下企業 7.9ポイ

ントで企業規模により受注状況が区々となっている。29人以下企業では27.6%で受注が減少しており「3ヶ月後」の予想でも26.4%が受注減少を予測している。

業種別では「3ヶ月前」と比べ受注状況DIは電気機械 10.3ポイント、一般機械 7.0ポイント、精密機械 6.7ポイントと3業種が受注増加となっている。金属製品は 14.3ポイントと減少し、輸送用機械は高水準の生産が続いているが減少企業もあり 6.3ポイントとなった。

主要5業種の「3ヶ月後」の予想受注状況DIは 0.9ポイントで受注が増加するとみる企業が19.7%となっている。

ヒヤリング調査では昨年夏から秋口をピークに受注が減少してきた電機機械の受注は予想より早く回復したとの見方が窺えた。一方産業機械関連の受注は受注残を抱え生産活動は高水準を維持しているが今後については慎重な見方が窺えた。

業種別・規模別受注状況表

表 - 3

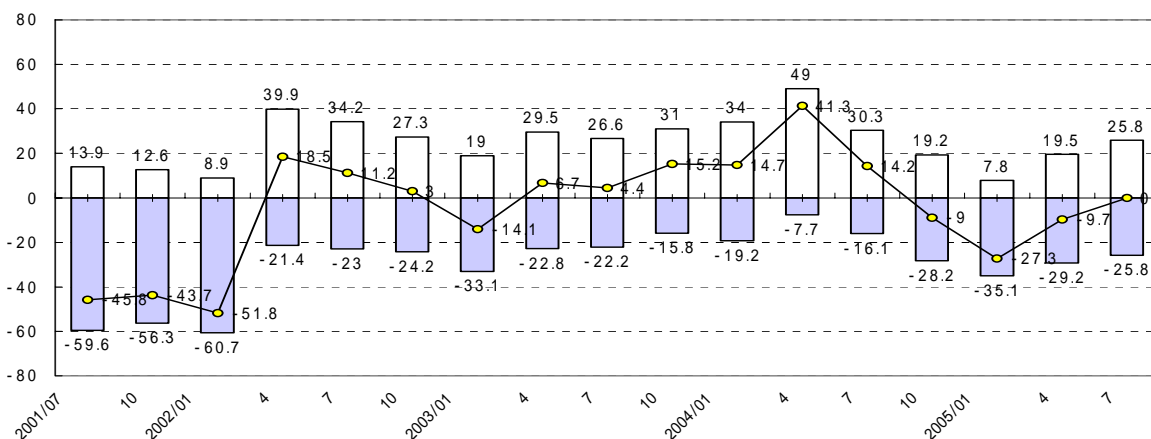
	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回 答 企業数	増加	不変	減少	DI	回 答 企業数	増加	不変	減少	DI	回 答 企業数	増加	不変	減少	DI	
製 造 業	156	25.6	48.1	26.3	-0.6	154	26.6	34.4	39	-12.3	148	18.2	60.8	20.9	-2.7	
規 模	1～29人	76	19.7	52.6	27.6	-7.9	75	28.0	34.7	37.3	-9.3	72	15.3	58.3	26.4	-11.1
	30～99人	48	31.3	35.4	33.3	-2.1	47	23.4	29.8	46.8	-23.4	44	18.2	63.6	18.2	0.0
	100～人	32	31.3	56.3	12.5	18.8	32	28.1	40.6	31.3	-3.1	32	25.0	62.5	12.5	12.5
中 分 類	金 属 製 品 製 造 業	21	23.8	38.1	38.1	-14.3	20	20.0	25.0	55.0	-35.0	19	10.5	68.4	21.1	-10.5
	一 般 機 械 器 具 製 造 業	43	25.6	55.8	18.6	7.0	41	34.1	34.1	31.7	2.4	40	17.5	60.0	22.5	-5.0
	電 気 機 械 器 具 製 造 業	29	37.9	34.5	27.6	10.3	29	31.0	34.5	34.5	-3.4	29	20.7	62.1	17.2	3.4
	輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業	16	12.5	68.8	18.8	-6.3	16	25.0	37.5	37.5	-12.5	14	21.4	57.1	21.4	0.0
	精 密 機 械 器 具 製 造 業	15	26.7	53.3	20.0	6.7	16	6.3	43.8	50	-43.8	15	33.3	46.7	20.0	13.3

製造業全社の受注状況DIの推移

全社

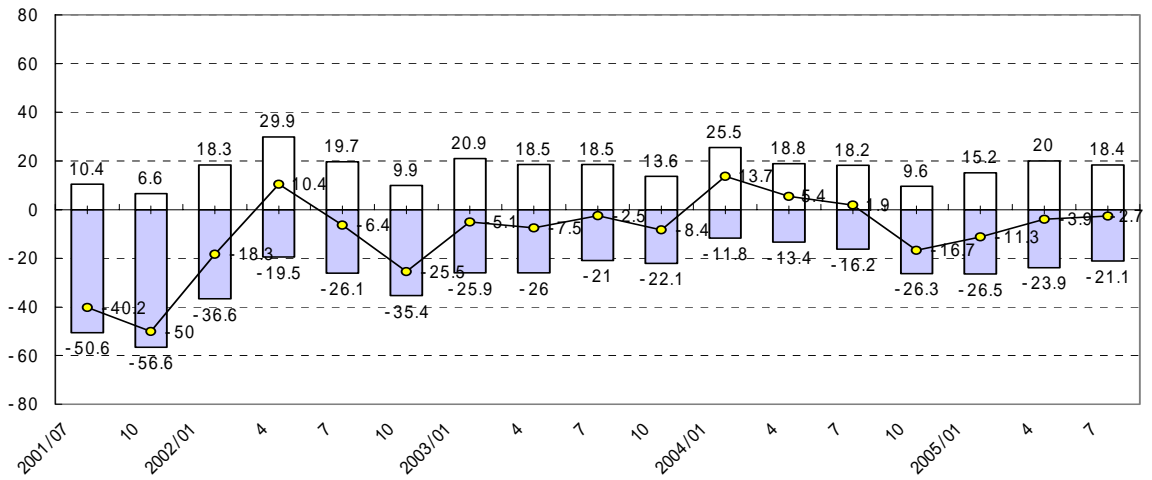
「3ヶ月前」と比べて

グラフ - 4



「3ヶ月後」の予想

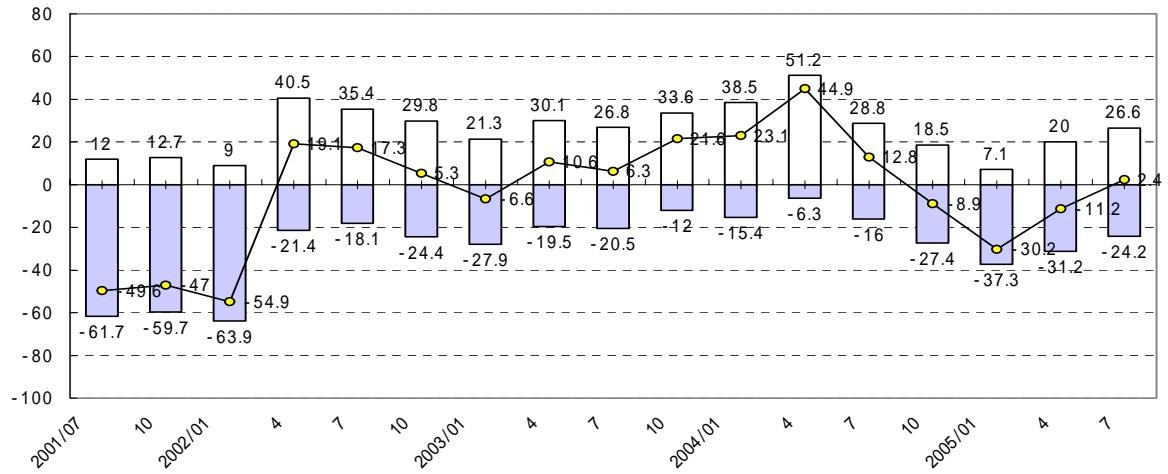
グラフ - 5



5業種の受注状況DIの推移

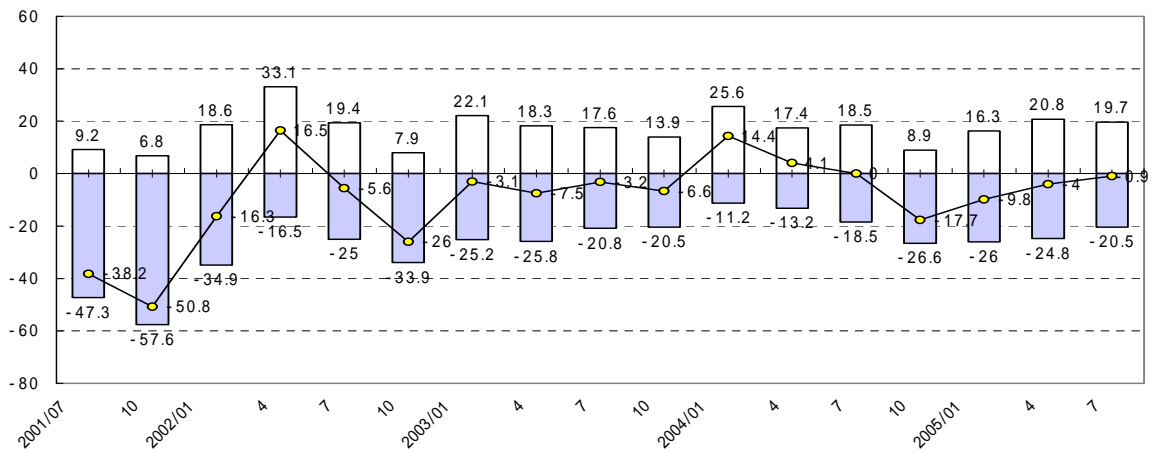
「3ヶ月前」と比べて

グラフ - 6



「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフ - 7

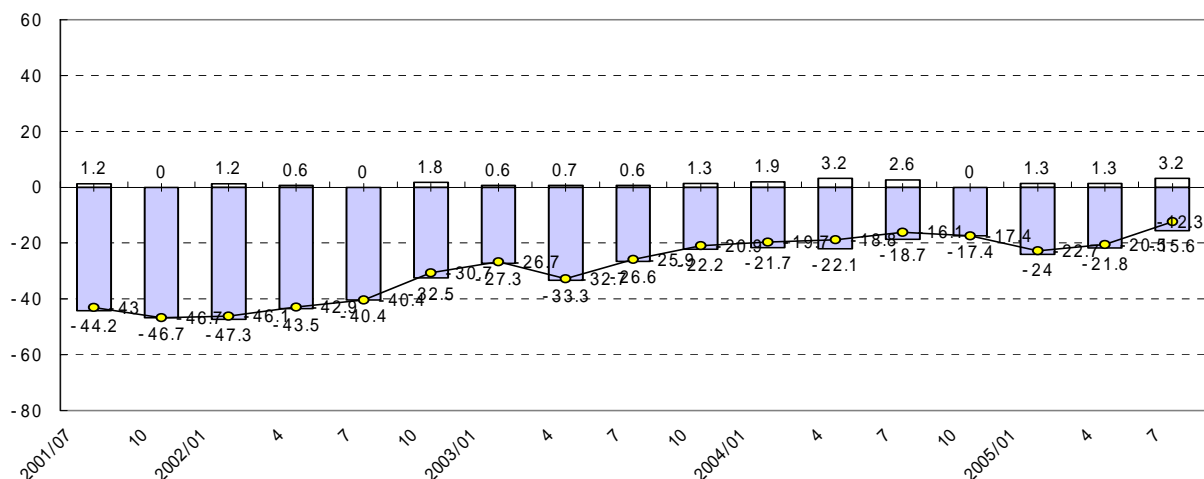


受注単価

業種、規模にかかわらず受注単価は低下しており、製造業全体の「3ヶ月前」と比べての受注単価DIは 12.3ポイントで厳しい状況が続いている。

受注単価DIの推移（「3ヶ月前」と比べて）

グラフ - 8



2. 商業・観光サービス業

商業

日中の外出を控える消費者が見られるなど猛暑の影響が一部みられ来店客数が減少した店舗が見られた。政府提唱のクールビズ商品や薄型TVなど順調な売れ行きをみせた商品もみられたが食料品など客単価が下がった商品もみられた。

食料品、ホームセンター、大型家電店など含めた商業全体の「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは 7.1ポイントで業況は回復している。「3ヶ月前」と比べての客単価DIは 21.4ポイントとなった。ヒヤリング調査からは中元の贈答品は、出足は鈍かったが後半盛り返し前年並みとなった模様。食料品は価格が下がっているものの一人当たりの購入点数が伸びないなど個人消費は慎重となっている。

食料品 惣菜や加工食品は順調な売れ行きをみせ、生鮮3品は野菜の価格が下がり、食肉・鮮魚など一時の低迷から回復したものの購入点数が伸びず売上げは伸び悩んでいる。

衣料品 クールビズ関連商品は売上を伸ばしたものの日中の来店客が少なく婦人衣料、紳士衣料や子供衣料は幾分低調だった。

ホームセンター 植物関連、家庭用プール関連商品や専門工具・資材など売れ行きを伸ばした商品がみられたが総体では横這いから幾分低調となっている。

大型家電店 薄型TVや新製品のパソコンは販売台数を伸ばし冷蔵庫など堅調な動きをみせたが期待のエアコンは7月上旬の台風や梅雨の影響を受けやや低調だった模様。

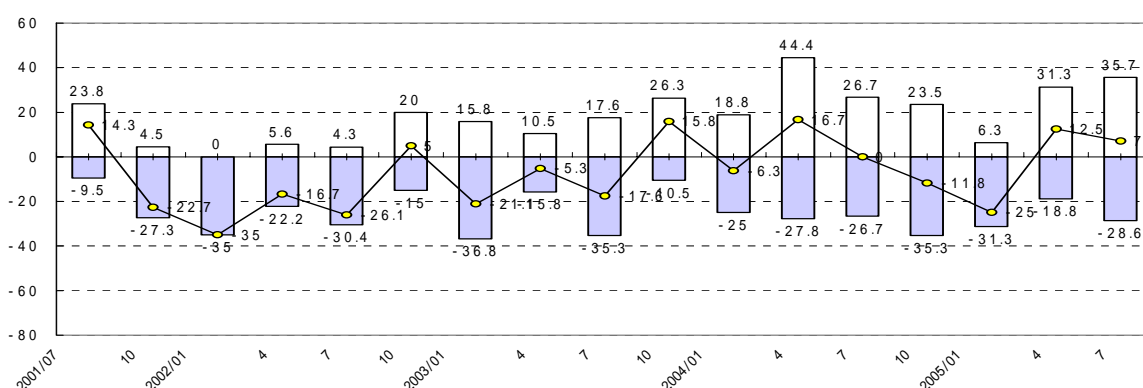
業況、客単価、来店客数

表 - 4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI
業 況	14	35.7	35.7	28.6	7.1	14	21.4	21.4	57.1	-35.7	14	35.7	50.0	14.3	21.4
客 単 価	14	21.4	35.7	42.9	-21.4	14	21.4	28.6	50.0	-28.6	14	35.7	50.0	14.3	21.4
来店客数	14	21.4	35.7	42.9	-21.4	14	14.3	28.6	57.1	-42.9	14	35.7	42.9	21.4	14.3

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIの推移

グラフ - 9



観光・サービス業

観光シーズンに入り猛暑から涼を求めての入り込み客も多く諏訪地域の観光地はそれぞれ賑わいをみせ、夏祭りなど地域イベントも大変な盛り上がりを見せた。宿泊客は施設により区々となっているが「3ヶ月前」と比べて宿泊客が増加したホテル、旅館は 61.1%で宿泊客数DIは 44.4ポイントとなった。「前年同期比」では 33.3ポイントとなっており一部に愛知万博のマイナス影響もみられた。

白樺湖、蓼科、霧ヶ峰方面の宿泊客数は旅館により区々で総じては前年同期に比べ幾分減少。上諏訪温泉、下諏訪温泉の宿泊客は夏シーズンで「3ヶ月前」では増加したところが多くなっているが前年同期比では幾分減少している。湖畔の観光施設はそれぞれ賑わいを見せた。

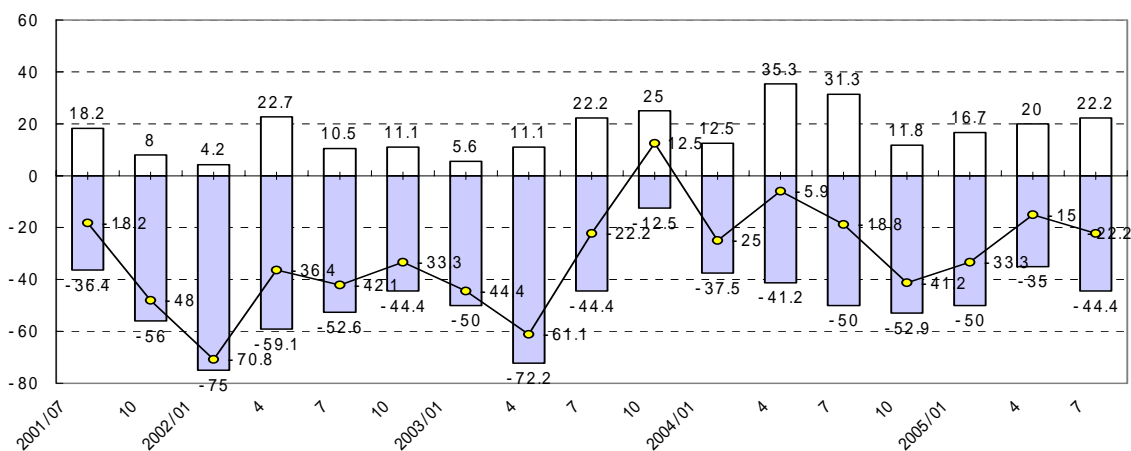
業況、売上、宿泊客

表 - 5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI
業 況	17	52.9	41.2	5.9	47.1	17	22.2	33.3	44.4	-22.2	17	66.7	16.7	16.7	50.0
客単価	18	33.3	61.1	5.6	27.8	18	22.2	44.4	33.3	-33.3	18	27.8	61.1	11.1	16.7
宿泊客数	18	61.1	22.2	16.7	44.4	18	16.7	33.3	50.0	-33.3	18	72.2	11.1	16.7	55.6

「前年同期」と比べての業況判断DIの推移

グラフ - 10



3. 建設業

新設住宅着工件数は前年同期比 6.3%増加しており住宅専門業者の中には受注が充足したところもみられるが、大型公共工事の案件が少なく土木工事を含め工事量が少なく建設業総体としては依然厳しい経営環境が続いている。

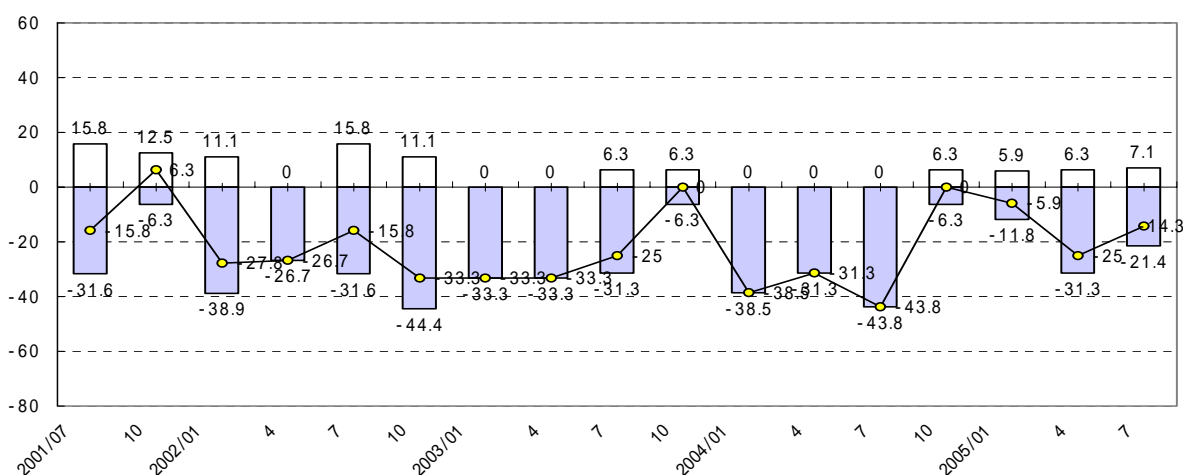
業況、受注状況、外注発注量

表 - 6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	14	7.1	71.4	21.4	-14.3	14	7.1	37.5	57.1	-50.0	13	7.7	69.2	23.1	-15.4
受注状況	14	28.6	42.9	28.6	0.0	13	23.1	38.5	38.5	-15.4	12	16.7	58.3	25.0	-8.3
外注発注量	13	7.7	53.8	38.5	-30.8	12	16.7	16.7	66.7	-50.0	11	18.2	54.5	27.3	-9.1

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIの推移

グラフ - 11



4 収益性状況

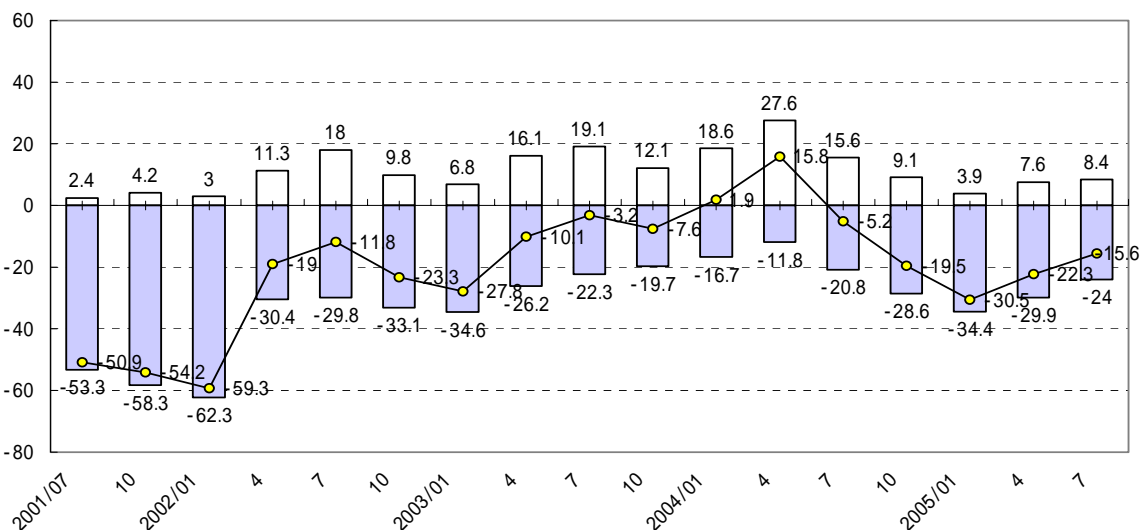
回答全社の「3ヶ月前」と比べての収益性DIは 14.0ポイントとなっている。

製造業は材料費のコストアップに加え親企業の発注単価の引き下げから「3ヶ月前」と比べ収益DIは 15.6ポイントで改善はみられない。非製造業の収益性DIは 8.9ポイントで第3次産業（商業、観光・サービス業）は春から初夏に向けての気温上昇や大型連休などから業況が回復しており収益性DIは 0.0ポイントとなった。建設業の収益性DIは 23.1ポイントで非製造業全体としての収益性DIは 8.9ポイントとなっている。

「3ヶ月前」と比べての収益性DIの推移

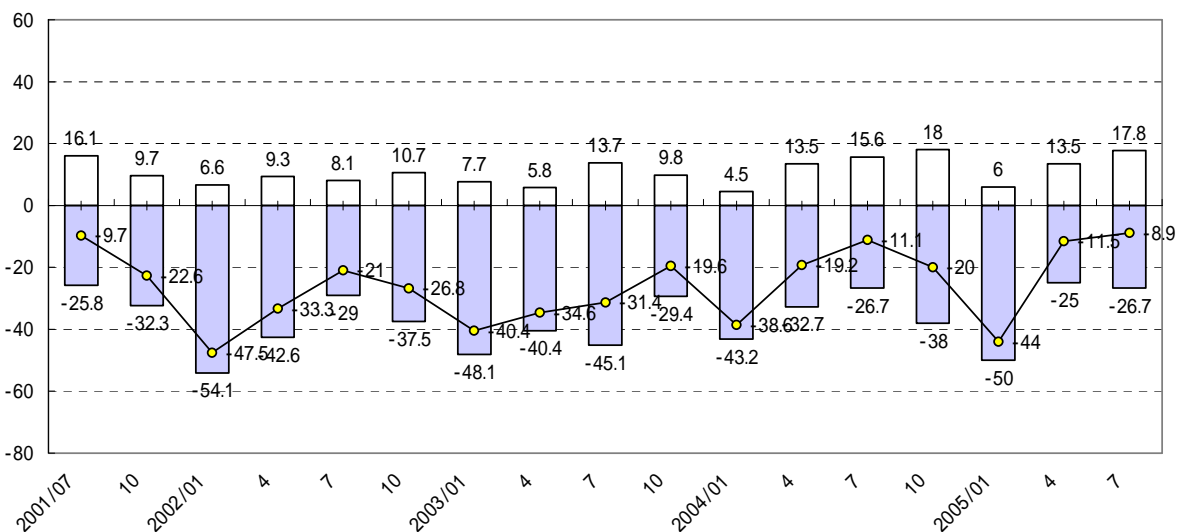
製造業

グラフ - 12



非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）

グラフ - 13



経営上の課題

経営上の課題として、製造業は売上減少、受注単価引下げ、競争激化をあげる企業が多く、商業は売上減少、競争激化、建設業は競争激化、観光・サービス業は売上減少をあげている。

その他課題として、製造業では原材料の高騰・入手困難、人材（即戦力の技術者）確保をあげる企業が多い。商業では大型店進出による競争激化をあげている。

	合 計	製 造 業	商 業	建 設 業	観光・サービス業
売 上 減 少	8 6	6 0	9	7	1 0
単 価 引 下 げ	6 9	5 7	2	5	5
競 争 激 化	6 2	4 1	7	9	5
資 金 繰 り	3 9	2 7	2	2	8
人 件 費	3 3	2 3	4	1	5
労 働 力 確 保	3 0	2 2	4	0	4

1. 調査期間 平成17年7月末
2. 調査内容 「平成17年7月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後の予想」
3. 調査方法 アンケート調査及びヒヤリング調査
4. 対象地域 諏訪地域全域
5. 業 種 製造業、商業（大型店 売り場面積501m²以上）、建設業、観光・サービス業
6. 回答企業数 201企業 回答率 61.0%

	製造業	商 業	建 設 業	観光・サービス業	合 計
依頼数	2 5 0	3 5	2 2	2 3	3 3 0
回答数	1 5 6	1 4	1 4	1 7	2 0 1

諏訪地方主要経済指標

主要指標		実 数	前年同期比	
有効求人倍率【6月】	諏訪公共職業安定所管内	1.26 倍	0.04 ポイント	
	岡谷公共職業安定所管内	1.17 倍	0.18 ポイント	
手形交換高【7月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	11,155 枚	1,725 枚	
	金 額	12,641 百万円	2,156 百万円	
	うち不渡り 発生状況	枚 数	0 枚	2 枚
		金 額	0 千円	800 千円
車庫証明取扱件数【7月】 (諏訪・岡谷自家用自動車協会管内)		1,282 件	6.2 %	
新設住宅着工件数(17.4~17.6月) (諏訪地方事務所管内)		557 件	6.3 %	